

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270400821		
法人名	株式会社 武上		
事業所名	グループホーム ノーマライ心の花御成		
所在地	千葉県若葉区下田町1263-56		
自己評価作成日	令和4年2月28日	評価結果市町村受理日	令和4年7月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和4年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念である『明るく楽しく笑顔で共に暮らす そして人として心の花を咲かそう』を、スタッフ一人一人が理解し体現に努め、入居者様に対する日々のケアに従事している。入居者様の笑顔を引き出す事は基より、事業所名にもなっている『ノーマライゼーション』の由来のように、障害の有無に関わらず入居者様お一人お一人のペースに合わせ、入居者様に寄り添いながら、これまでの生活を出来る限り継続していけるよう日々のケアを提供している。家庭的な雰囲気と食を重んじ入居者様とスタッフの顔なじみの環境を大切に、その方々の認知症症状に合わせ柔軟に、想いに寄り添うケアを心掛けている。事業所を開設し約17年が経過し、ご本人・ご家族様の希望に合わせ看取り対応も行っており、自然な最期を迎えられている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「いろいろな人生を経験してきた利用者が、自分らしさを大切にして楽しく生活を送れるように」との思いで、ホームでは個別ケアの充実を重視している。IT機器を使って利用者の要望や状況を職員間で常時共有して、細かい個別サービスの提供に努めている。食事は手作りであり、品数、大きさや彩り、旬の食材を大切にしている。また、ひな祭り、端午の節句、七夕、敬老の日や誕生会などには行事食で季節を感じられるようにしている。利用者の創作活動は、脳への刺激だけでなく、作品を展示することで、単調になりがちな日々の生活に楽しみを作っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るく楽しく笑顔で共に暮らす」という理念を掲げ、新人職員にはオリエンテーション時に周知している。既存職員に対しては、内部研修、毎日のミニ会議などで再確認できるように努めている。	毎日ミニ会議を開催し、その日の利用者の状況を職員同士で確認しあい、利用者が「明るく楽しく生活できる」よう、個別ケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症対策の為、地域の活動は参加できていないが、自治会に加入し、自治会長始め近所の方々とのコミュニケーションを図るようにしている。	現在はコロナ禍で中止をしているが、自治会の祭りや子ども会の催しに利用者が参加をしたり、学生の職場体験やボランティアも受け入れていた。また、介護保険や認知症について講師を務めるなど、地域とつながりを持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染対策に注意しながら、民生委員の方々の見学会を行い、質問や相談をお受けし、これまでの認知症介護の経験等を活かして地域に貢献できるように活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により、前年度は開催出来ていない。	今年度の運営推進会議は感染対策をしながら、民生委員や自治会長が出席して開催しており、一連の活動報告と意見交換をおこなっている。サービスの質の向上につながるような、建設的な意見をもらうことができています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホーム運営の中で疑問や相談事を介護保険事業課や安心ケアセンターへ連絡を取り、日々協力関係を築くようにしている。	おおむね月に1回以上は市の担当者を訪問しており、コロナ対策として、ホーム内のユニット間移動の自粛や紙皿や紙コップの使用などのアドバイスをもらった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	いかなる状態であっても身体拘束は一切しないという強い理念のもと、身体拘束を行わないケアを実践するため、入居者一人一人の立場に立って寄り添うケアを行うよう、日々職員への指導を行っている。	「身体的拘束等の適正化のための指針」があり、身体拘束廃止や虐待防止のマニュアルも整備して内部教育をおこなっている。夜間は防犯上の理由から施錠しているが、昼間は施錠していない。利用者が出る時には職員が付き添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や資料の回覧等を行っている。入居者様個々のパターンに合わせどんな事が虐待に当たるのかをミーティングで話し合い、日々入居者様の状態に合わせた対応を検討している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表者、管理者や計画作成担当者を中心に、必要に応じてその方に合った制度や支援事業等を活用できるよう、それぞれの制度について学び、関係者と協力しながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に必ず、利用契約書や、重要事項説明書の十分な説明を行っている。利用開始にあたり、不安や疑問のないよう、理解していただけるまできちんとご説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	前年度よりインスタグラム、公式LINEアカウントの開設を行い、職員、ご家族様が相互に気軽にお話できる場を設けた。ご家族様より、日々の様子がうかがえ安心できるとご好評を頂いている。	利用者の要望は連絡帳に記載したり伝言で申し送り、毎日のミニ会議で対応を諮っている。また、SNSの使用により、家族からの個別の要望を把握し易くなっており、情報は職員間で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングやミニ会議にて職員の意見の吸い上げを行っており、入居者様お一人お一人にその時に必要なケアの実現に向けて役立っている。	職員が意見を出し易く、また公平性を保つために2年前から人事部長職を設けている。相談事があれば、即座に話し合う体制があり、職員の意見などを吸い上げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度より特定技能実習生を複数受け入れており、当事業所として新たな取り組みに管理者、現場職員と日々話し合いを重ねている。実習生一人一人に合わせた課題設定をし、意欲的に就労できるようフォローしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格や経験に拘らず、各々の成長スピードに合わせた人材育成を実施し、一人一人の職員がより実力を発揮出来るような環境作りに取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍にあり、現状交流ができていない状況にはあるが、代表者が関係を持った同業者の話と共有し、コロナ以後の交流実現に向けて、代表者が同業者と打ち合わせを行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接を含む介入時から入居者様及びご家族様に積極的に情報収集や提供を行い、ニーズ等の把握に努める事で、ご本人の不安を最小限にし安心して暮らせるような環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接を含む介入段階からご家族様と連絡を密に取り合い信頼関係の構築に努め、不安の軽減等に繋げられるよう心掛けている。入居後もその都度、ご家族様の不安や疑問は公式ラインアカウントで気軽に相談して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学時や入居前からご本人のADLや認知症状の状況をきちんと情報収集し、その時にご本人様が必要としているサービスを提供出来るよう、初期段階の適正なサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者様は介護する側とされる側ではなく、共に暮らす中でご本人の出来ない所をさり気なく手助けし、また個々の残存能力を活かして生活の中で出来ることをしていただくことで、互いに助け合う関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から定期的な状況報告に加え、状況変化があった時にはその都度ご連絡をし、入居者様の状況を御家族様にもきちんと理解していただき、共に御本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にあり、面会は予約制にし、少人数で窓越しということでご家族様にご納得頂いている。またご要望があればビデオ通話にも対応し、関係が途切れないように努めている。	コロナ禍以前では、家族と食事に行ったり、兄弟の来訪もよくあった。また、家族がボランティアでマジックショーなどをおこなったこともある。現在は面会制限があり、ビデオ通話などを活用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット内だけでなく、他ユニットも含めて入居者様同士が助け合いながら生活できるよう、職員が間に入り関係性を築けるように支援している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も関係性を断ち切ることなく、退去後の生活において困りごとなどの相談やサービスの案内等、出来ることを支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で一人一人の思いや意向を引き出せるような声かけや対応を心がけている。意思疎通が困難な場合でも、これまでの生活やご家族からの情報を基にご本人の立場に立って考え、自己決定が出来るよう支援している。	利用者とのコミュニケーションを大切にしており、会話や表情、仕草から思いの把握に努めている。時には家族から情報を得ることもある。把握した情報は職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の暮らし等についてアンケートに記入して頂き、生活歴や環境などを把握するのに役立っている。職員一人一人が日々のケアの中から、知り得た情報はタブレット端末に記録して情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の情報や状況を細かく観察し、記録に残すことで、職員がお一人お一人の状況を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日、その時々が入居者様の問題や対応についてミニ会議を行い、ケアプランにも反映している。また毎月のモニタリングを行い、ご家族様にも状況報告し、ご要望を介護計画に反映させている。	毎日のミニ会議で情報を共有し、現状に即した介護計画書を作成できるようにしている。介護計画書に沿って毎月モニタリングをおこない、3か月に1回見直しをしているが、変化があれば随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を電子化することで、リアルタイムでの情報共有を心がけるとともに、気付いたことなどはミニ会議での意見交換や申し送りノートを活用し、常に職員間で共有、検証ができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに柔軟に対応できるように、既存のサービスに捉われない対応を心がけている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の子育てリラックス館のクリスマス会や運動会に呼んで頂いていたが、前年度より感染予防の観点から参加できていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のご要望に応じ、入居前からのかかりつけ医に受診している場合も同行し連携を図っている。特に希望が無い場合も適切な医療が受けられるように支援している。	協力医療機関の訪問診療にするか、入居前からのかかりつけ医に受診するか、希望に応じて支援している。月2回の訪問診療医と、職員として配置している看護師が連携して健康管理をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームの看護師が定期的に健康チェックを行っており、職員や入居者様は気になったことを気軽に相談できるようになっている。またタブレット端末に画像を添付することで、誰もが状態を把握できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーでの情報提供や病院との連絡をマメにとり、早期に退院できるよう、情報交換を行い関係性を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人様とご家族様のご意向をお聞きし、出来る限りご希望に沿えるような支援体制をとっている。また終末期が近づいてきたら再度ご家族様にご意向を確認し、ご希望に沿った最期を迎えられるよう支援している。	入居時に、看取りに関する指針に基づき説明をして、同意を得ている。終末期が近づいた時に医師から家族に説明をして、意向を確認している。本人や家族に寄り添った看取りを心がけ、複数の看取り実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度はコロナ禍にあり内部研修で、最新の感染予防対策を学習し日々の感染予防に務めている。内部研修では、現場職員の不安なことを吸い上げ、研修内容に反映させるとともに、各ユニットに「完全図解 新しい介護」を置き、いつでも見られるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、日中、夜間とそれぞれ想定して消防避難訓練を行っている。また訓練後の課題を話し合い、次回訓練に反映させるようにしている。停電対策の一環として、入居者様の安全の確保のために居室移動なども視野に入れて、日々話し合いを重ねている。	年2回、日中、夜間を想定した避難訓練を実施し、設備操作訓練も同時におこなっている。訓練時の課題についてはミニ会議で話し合い、参加できなかった職員には会議録を配布して共有している。歩行が困難になった利用者を2階から1階に居室変更するなどの対策もしている。	食料、水、備品の一覧表を作成し、期限切れや不足備品の管理をすることもよいと思われる。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人の人格を尊重し、人生の先輩として敬う気持ちを忘れず、尊厳を損ねないような声かけや対応を心がけている。	接遇マナー研修、新規入職者研修でプライバシーを損ねない声掛け、排泄介助時の注意点など細かく指導している。利用者の尊厳を損ねない対応をすることを職員間で共有して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から入居者様の思いや希望をくみ取って支援するようにしている。選択が困難な方には選択肢を絞って自己決定出来る環境を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に業務でなく入居者様を最優先に、個々のペースに合わせた介護を行うように、入職時から職員には教育を行っている。日々の生活の中で、一人一人の希望に沿った暮らしが出来るよう、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様には、季節に合わせたお好きな服を着て頂けるよう支援している。定期的に訪問理美容を利用し散髪している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月、行事食を取り入れ、四季を感じて頂けるよう工夫している。入居者様一人一人の能力に合わせて、調理の下準備や、食器の配下膳、食器洗いや食器ふきなど役割分担することで生活のハリに繋げている。	食材は職員が発注し、調理は調理専門の職員がおこなっている。毎日翌日の献立を考えており、利用者の意見も聞きながら決めている。誕生日会、ひなまつり、端午の節句、敬老会など季節ごとに行事食を考えている。調理の下準備や配膳、下膳、食器拭きなどは利用者も参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人が十分な栄養を摂れるよう、個々に合わせて食事を調整している。水分摂取量を計算し、一日に必要な水分量を摂れるよう、個々に応じた対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必要に応じて声かけし口腔ケアを行っている。週に一度、訪問歯科で口腔ケアとともに、気になったことはすぐに相談できる体制が整っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄パターンを把握し、それぞれに合わせた介助を行い、出来る限りトイレでの排泄が出来るように支援を行っている。	排泄チェック表を作成し、職員間で共有して声掛け誘導をしている。できるだけ、トイレで排せつができるように努め、自立に繋げるように支援しており、リハビリパンツから布パンツに移した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、毎朝牛乳をお出ししたり、食物繊維の多い野菜などを献立に組み込んでいる。また便秘予防の体操なども取り入れるなど様々な取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の体調やその時の気分に合わせて入浴介助しており、決して無理強いせず、ご本人様のタイミングに合わせて支援を行っている。	入浴は週3回としているが、体調や、気分で入浴できない場合は、タイムアウトをみて支援している。季節のゆず湯、菖蒲湯の他、入浴剤も使用して入浴を楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動時間と休息時間のメリハリを付けて生活できるように支援し、夜間眠れない時は眠くなるまでリビングで一緒に過ごして頂くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服している薬の情報を確認できるように一覧にするとともに、投薬時は何重にもチェックし誤薬を防ぐように取り組んでいる。訪問診療後には内服変更を申し送りし、症状の変化にも注意して服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の得意なことなどを活かして、役割分担をし張り合いのある生活を送れるように支援している。四季折々の行事の準備にも参加して頂き、個々の得意な事で力を発揮して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様から希望があった場合はご家族様と相談し対応する事がある。コロナ禍にあり外出は難しいものの、気分転換のために近所へ散歩にお連れすることは行っている。	コロナ禍で、現在は制限しているが、外出、外泊、外食、墓参りは家族と一緒に出かけていた。散歩は、天候や利用者の状況に応じておこなっている。今後は少人数で、お花見などを計画している。また、1日3回の体操などで、意欲低下、ADL低下の予防に努めている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭の持ち込みはご遠慮頂いているが、希望があれば近所で買い物をする時に使うことができるような支援を行う場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば電話をかけたり、ご家族様からの電話でお話をされる方もいらっしゃる。前年度よりビデオ通話も対応している。手紙のやり取りをしている方もいらっしゃる。職員が預かり投函して対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に職員も環境の一つと考え、ドアの開け閉めの音にも注意を払っている。共用部分には特に安全性を考え通行の妨げになるようなものを置かず、整理整頓を心掛けている。また四季に合わせ掲示物を変えて、季節感を味わえるようにしている。	2階リビングは明るく、広々としている。ソファが置かれ、ゆっくり寛げる環境にあり、新聞を読んでいる利用者もおり、思い思いに過ごしていた。季節の花を飾り、壁には利用者の作品を掲示している。1階については、採光の工夫ができると良いと思われる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室に長く入られている時は孤立しないように声をかけている。リビングでは気の合う方とお話しし易いように座席配置している。定期的に席替えをしたり、他ユニットにお連れするなどして、新しい交流を持てるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使っていた筆筒など馴染みの物を置く事で、心地よく過ごして頂ける工夫をしている。	入居前に近い環境を作るため、使いなれた枕や布団、仏壇、家族の写真などを持ってきてもらっている。季節ごとの衣類の入れ替えは利用者が職員と一緒にこなしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室ドアに名札をつけ、居室が分かるようにしている。またトイレや風呂場にも表示をつけて、お一人でも迷わず向かえるように工夫している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと